

第5回会議までの議論の整理

区分	開催日	会議で確認した事項等
第1回	1/22 (月)	<p>会議で確認した事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>当委員会の役割、協議の進め方（スケジュール）を確認</b> 「本庁舎が有すべき機能についての基本的な考え方」及び「本庁舎の周辺において本市が保有し、又は保有していた施設の機能の維持及び再生についての基本的な考え方」に関する事項、このほか、基本構想に関し必要な事項 この3点について検討し、取りまとめた意見を市に具申すること 当面、6月まで毎月1回会議を開催したい 委員会での検討と並行して市民ワークショップ、市民アンケートを実施する (多様な意見の収集、市民意見の傾向の把握を目的)</li> <li>・ <b>検討対象となるエリア及び施設、これまでの検討経過を確認</b> 本庁舎、旧市民会館、プラザおおるり、第2・第3文書庫、中央小公園・中央小公園西駐車場の敷地を対象とする。 旧市民会館が休館に至った平成25年以降の動向、庁舎建替えの方向性の決定、財源確保に関する検討経過、公共施設マネジメントの関連性 旧市民会館の機能再生については、既存の類似3施設（プラザおおるり、夢づくり会館（金谷）、チャリム21（川根））の今後の方向性と一体で検討する</li> <li>・ <b>検討にあたっての前提条件の整理</b> 新病院建設、新東名島田金谷IC周辺プロジェクトの2大プロジェクトが並行している<u>財政面の制約</u>下にあつて、有利な財源確保策を見据えたスケジュール検討が必要 <u>土地利用上の制約</u>として、第2種住居地域における劇場整備が該当（第2回にかけて、建築基準法の許可若しくは用地地域の変更によってクリアされる課題であることを確認した。）</li> <li>・ <b>会議全般をとおして</b> はじめに、その施設が将来にわたってどのように利用されるのか、どういう利用をしていこうとしているのかを明らかにすべき アンケートに際しては、若いこれからの世代の意見を集める工夫をすべき 既存の類似3施設、解体前の旧市民会館の利用率はそれほど高くない 庁舎の議論ははっきりしているが、<u>文化施設の議論は幅が広い</u> 財源、必要性、配置、スケジュールを関連付けて議論する必要あり</li> </ul>
第2回	2/27 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>民間資金等活用事業基本調査の結果（概要）を確認</b> 市が仕様で設定した規模の施設整備、管理運営（15年間）をPFI方式で行った場合のVFMは4%程度 周辺の市有地活用についても商業ベースに乗らない</li> <li>・ <b>市民ワークショップの開催状況を確認（第2回まで）</b> 参加者から庁舎内に民間機能を入れてテナント料を得ながら、複合的なサービスを提供できるような提案があった</li> <li>・ <b>市民アンケートの実施について協議</b> 事務局においてアンケート実施に係る新年度予算を確保した。アンケートは非常に重要。他市では郵送だけでなく来庁者に依頼した事例あり。ホールについて発表する立場、鑑賞する立場、また芸術活動を創造する立場の意見、需要を測る設問の工夫、学校、自治会等に協力願い市の姿勢をアピールする工夫、若い人の意見を集める工夫をされたい。</li> <li>・ <b>対象地のこれまでの利用状況について確認</b> 対象地の大正期以降の歴史的推移について確認した。</li> <li>・ <b>委員からの資料請求</b> PFI方式と従来方式の違い、メリット・デメリットが掴みやすい資料 他の大規模プロジェクトに市役所周辺整備を重ねた場合の財政負担について市</li> </ul>

		<p>民の負担額が拮めるような資料 上記資料の請求があった。</p>
第3回	3/26 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>検討の前提条件について</b> 市役所周辺整備事業に際して新たに周辺の土地（民地）を取得する考えはないことを確認した。</li> <li>・ <b>市役所周辺整備事業の財政への影響の度合いについて</b> 現在進行中及び計画されている市の大規模プロジェクトが、計画ベースの時期、事業費、起債借入れにより進んだ場合の公債費負担比率の推移、起債残高が年収（標準財政規模）に占める割合を示し、家計調査等の統計値から引用した家計ベースとの比較を説明した。 人口減少等に伴う税収の減少等が示されていないことなど、事務局の将来推計の甘さ等を指摘する意見が相次いだ。</li> <li>・ <b>従来型の手法とPFI手法の経済的優位性の比較について</b> 事業発案から事業化までの期間、整備事業費と管理運営費について比較し、双方のメリット、デメリットを確認した。</li> <li>・ <b>市民アンケートの実施内容について</b> 事務局が示した設問（案）について細部に至るまで確認し、発送・回収の方法についても協議した。特に文化施設の整備について市民の意見の傾向を把握できる設問とすることを確認した。</li> <li>・ <b>文化施設の管理運営及び利用の実態と今後の方向性について</b> 次回協議とした。</li> </ul>
第4回	4/23 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>前回議事に対する補足説明について</b> 市役所周辺整備事業の財政への影響の度合いについて、市債残高と公債費負担比率の推移に限って説明し、計画ベースの全てを短期間に集中して実施した場合、公債費負担が危険ゾーンに達する恐れがあることを念頭においた計画とすべきことを確認した。</li> <li>・ <b>ワークショップの結果について</b> 運営に関わったファシリテーター2名の出席を得て、意見の集約結果以外に、運営上の工夫、意見を引き出すために留意した事項の説明を受けた。</li> <li>・ <b>文化施設の管理運営及び利用の実態と今後の方向性について</b> 既存3施設の財務（市側、指定管理者側双方の収支、建物の減価償却の割合）、品質（施設の不具合の状況、改修費用の見込み）、供給（ホール、ホール以外の利用状況）を確認した。 ※論点整理のため既存文化施設の存続・活用方針、新施設の整備の有無について委員の意見を確認するシートを作成することとした。</li> </ul>
現場視察	5/13 (日)	<p>以下の4施設を委員、事務局で視察した。（参加委員10名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>島田市川根文化センター「チャリム21」</b> ホールに雨音が伝わる状況で遮音性が十分でないことを確認した。舞台に奥行きがなく吊り物も少ない。舞台袖がなく、楽屋スペースが狭く、動線が悪い。2階会議室からの景観は優れている。</li> <li>・ <b>島田市金谷生きがいセンター「夢づくり会館・五和会館」</b> ホールが2階から立ち上がるため、舞台の天井高が取れない構造。舞台の奥行き、袖がなく、専用の楽屋がない。会議室、諸室は充実している。</li> <li>・ <b>島田市役所本庁舎</b> 玄関廻り、地下、1階・2階の一部を視察。建物、設備の老朽化の状況、執務室内の狭隘さを確認した。</li> <li>・ <b>島田市民総合施設「プラザおおり」</b> 他の2館に比べて舞台は広く、奥行き、袖もあるが、楽屋設備も含めて劇場としての機能は不十分で改修による拡張性はない。</li> </ul>

		<p>・まとめ</p> <p>川根、金谷の施設は計画段階から劇場に関する専門家の意見が入っていない。舞台、客席を備えた施設であるが、有料公演ができるレベルの施設ではない。3館の中では「おおり」の評価は高いが、劇場専用施設ではない。</p>
<p>第5回</p>	<p>5/18 (金)</p>	<p>・市民アンケートの中間報告について</p> <p>アンケートの集計状況は5月15日到着分で1,307票、回収率は43.6%。年齢層の高いところの回答率が高い。</p> <p>施設の利用頻度は、市役所は「数カ月に1回」と「年に1～2回」が多く、おおりも同様だが「利用しない」という方も相当数いる。</p> <p>市役所に来る交通手段は自家用車が多く85%。要件は市民課が圧倒的に多く、建物の印象は配置や表示、窓口業務のプライバシーの評価も低く今後改善が必要。<u>庁舎の配置</u>についての考え方について、集約した方がよいという意見が半数を占めたが、<u>分散した方がよいという意見も4割を超えた</u>。これからの時代の庁舎のあり方について、街のにぎわいなど付加的要素をどの程度望んでいるかという意図の質問だったが、<u>機能重視という意見も多く意見が割れたという印象</u>。</p> <p>文化施設では、おおりなど現状の施設で自らが発表練習で使ったのは少数で、<u>鑑賞される方の数が多い</u>。鑑賞の機会はおおりが多いが、それぞれ複合施設として多目的に整備されているのでホール以外の利用も多いと思われる。文化活動に不便さを感じているかを練習・発表・鑑賞の別に伺った。<u>不便を感じないとした回答が78%を占める</u>。今後の文化活動のハード的な環境整備について、判断がつかないという答えが相当数あった。市民会館に近い規模の文化施設をという意見は367件、30.3%。席数は少なくとも新たな施設をというものが124件、10.2%。<u>新たな整備を望まないのが445件、33.7%で一番高いが、席数の如何を問わず新たなホールを望む意見が4割を占めている</u>。</p> <p>・文化施設のあり方について</p> <p>論点整理シートに基づき、各委員が意見を述べた。各委員が最も有力とする案の分布は、「既存施設を残し、おおりを改修し新施設を建設しない」が3人、「夢づくり、チャリムを残し、おおりを廃止して新施設を整備する」が2人、「既存3施設を全て廃止して新施設を整備する」が2人となっている。さらに括ると、「新施設を整備するにあたって、おおりを廃止する」ことを条件とする意見が4人となる。</p> <p>※チャリム21と夢づくり会館については、文化施設（劇場）として同列に扱うことは適当でなく、地域の多様な活動の場としての意義に着目するべきとの見解が大勢を占めることを確認した。</p> <p>・庁舎のあり方について</p> <p>次回協議とした。</p>
<p>○文化施設のあり方について示された意見のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめにハコモノありきでなく、施設が将来にわたってどのように利用されるのか、どういう利用をしているのかを明らかにすべき（市の文化施策上の位置付け、方向性、市民ニーズ）【第1回】</li> <li>・興行ベースとして、本市で1,000席のホールでは採算は成立しない（民間資金調査）【第2回】</li> <li>・劇場、ホールに魂を入れる（然るべき運営体制を整える 人材、運営費予算の確保）【第1回】</li> <li>・劇場の定義＝文化、芸術活動の創造の場（単なる発表、買取り公演の上演だけではない）【第2回】</li> <li>・施設には（運営を担う）専門の人材を配置して育てていかないと施設を整備しても機能しない【第3回】</li> <li>・市庁舎と文化施設との関係性の議論が欠けている。文化施設との連動についてハード面だけでなくソフト面も盛り込んだ検討をしていかなければならない【第4回】</li> <li>・建設費で50～100億円、しっかりした出し物をしていくには3.5億円/年程度負担する覚悟を持つ必要がある【第5回】</li> </ul>		